

令和8年1月14日

報道関係者 各位

大阪府藤井寺市

特別展

「めざせ!重要文化財～狼塚古墳出土 導水施設形埴輪～」

の開催と報道関係者向けの展示先行公開について

狼塚古墳の導水施設形埴輪は1997(平成9)年9月に出土し、出土位置から当時の配置の様子が復元できる重要な事例として令和4年に「狼塚古墳出土柵形埴輪及び木桶形土製品」という名称で藤井寺市指定文化財に指定されました。また、当時の「水の祭祀」を表した狼塚古墳の導水施設形埴輪は、出土状況が良好であり、埴輪の配置やその形態が特徴的で、当時の人々の水を使った祭祀行為について理解するうえで重要な資料であることから皆様に価値を知っていただくために特別展を開催します。

今回は出土した状態を展示で表現します。導水施設形埴輪の他にも狼塚古墳で出土した円筒埴輪や水鳥形埴輪、盾形埴輪なども展示します。



導水施設形埴輪 配置復元写真

■ イベント概要

開催日時：1月24日（土）～2月8日（日）9時～17時30分（月曜日は休館・月祝の場合は翌火曜日休館）

開催場所：大阪府藤井寺市藤井寺 3-1-20

アイセルシュラホール2階 特設展示場（ワークショップスペース）

展示内容：「めざせ！重要文化財」「導水施設ってどんな施設？」

「埴輪であらわされる儀式」

※1月22日（木）10時より報道関係者向けの展示先行公開を行います。

ご参加いただける方は文化財保護課事前に電話（072-939-1419）にて申し込みのうえ、

当日文化財保護課窓口（大阪府藤井寺市藤井寺 3-1-20 アイセルシュラホール 2階）までお越しください。

関連イベントとして特別展に関連したトークイベントや展示解説を行います。

※詳細は別紙資料をご覧ください。

また、ご不明点等ございましたら、下記、問い合わせ先までご連絡ください。

藤井寺市 HP：

<https://www.city.fujiidera.lg.jp/soshiki/kyoikuiinkai/bunkazaihogo/bunkazainoibento/20627.html>



<https://www.city.fujidera.lg.jp>

藤井寺市は大阪府の南東部に位置し、市域面積が 8.89km² と大阪府で最も小さい市ながら、鉄道の 3 駅や西名阪自動車道が通っており、アクセス性の高いコンパクトシティとして形成されています。市域には、世界文化遺産に登録された古市古墳群や日本遺産に登録された西国三十三所第五番札所の葛井寺などを有し、歴史資産が豊富なまちでもあります。

近年は、おしゃれな雑貨屋やカフェが増え、「なかなかのまちなか藤井寺」をキャッチフレーズにまちなか観光を推奨するなど、あらたな魅力をみせています。



【本件に関するお問い合わせ先】

大阪府藤井寺市

藤井寺市教育委員会教育部文化財保護課 担当：岡田

TEL：072-939-1419

E-MAIL：bunkazai@city.fujidera.lg.jp

別紙資料

●狼塚古墳について

狼塚古墳は5世紀前半に築造された最大径 46m の造出し付き円墳と考えられています。本古墳は古市古墳群に属する^{おうじんてんのうりょう}応神天皇陵（^{こんだごびょうやま}誉田御廟山）古墳の北部外堤に位置します。1997（平成9）年9月に藤井寺市教育委員会により発掘調査がおこなわれ、その存在が明らかになった^{まいぼつこふん}埋没古墳です。^{はいちよう}応神天皇陵古墳の陪冢の一つと考えられます。

1997(平成9)年の発掘調査では、^{つくりだ}造出しとくびれ部が確認されており、造出しでは円筒埴輪列と水鳥形埴輪の基部や家、盾、水鳥などの形象埴輪の破片が出土しています。くびれ部付近では、造出し北側斜面から約 25cm 下がった位置に平坦部が作られ、そこに^{さくがた}柵形埴輪を方形に8個並べ、一辺約 1.2m の区画が作られています。通常は一列に並べ、空間を区切るように用いられるのに対し、方形で囲うような配置となっているのが特徴です。

●導水施設形埴輪について

柵形埴輪は古市古墳群特有の長方形(短辺約 10 cm、長辺約 50 cm、高さ約 42 cm)のものが8点あり、そのうちの1つは^{おうじんてんのうりょう}応神天皇陵古墳側に「出入り口」と考えられる開口部を表現しています。外面には赤色顔料が塗布された痕跡や内面の一部に顔料が残存する箇所もあるため、全体が赤く彩色されていたと考えられます。

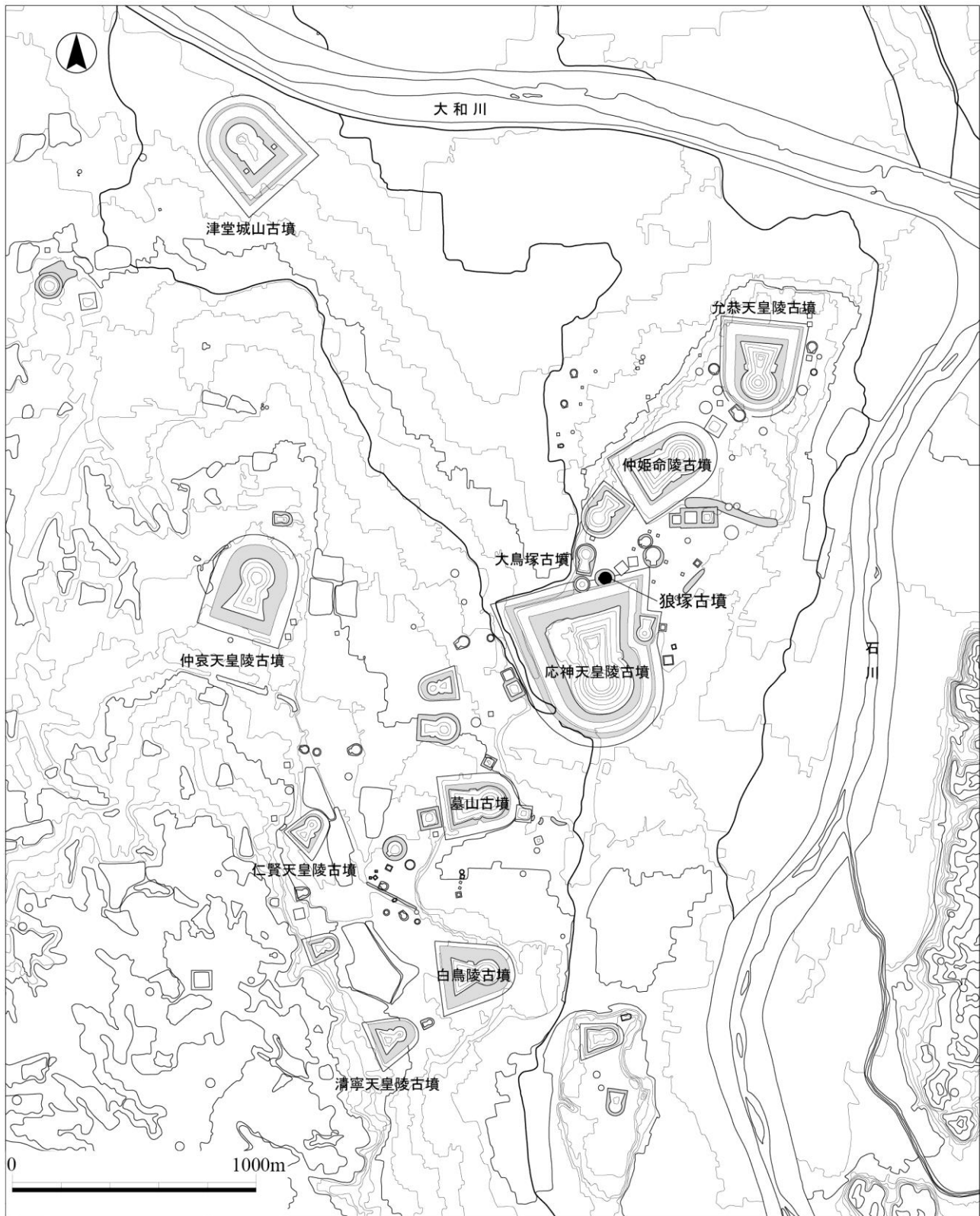
柵形埴輪の基部の外側は石を敷くことによって固定し、柵形埴輪で囲まれた内部には^{いし}葺石とは違う大きさの玉石が敷かれていました。方形区画の中央部やや北側には木桶形土製品が置かれており、樋部を延長した柵形埴輪の間は 5cm 程度のすき間が開いていました。木桶形土製品にも赤色顔料が塗布された痕跡があるため、こちらも全体が赤く彩色されていたと考えられます。

柵形埴輪で囲った中に木桶形土製品が配置する様式は、^{ごせ なんごうおおひがし}御所市南郷大 東遺跡で見つかった水の祭祀場と考えられる導水施設に類似しており、こうした水場の祭祀を表した埴輪として、遺存状況が良好でかつ、配置やその形態が特徴的であることから、古墳時代の水を使った祭祀行為を理解するうえで重要な事例といえます。

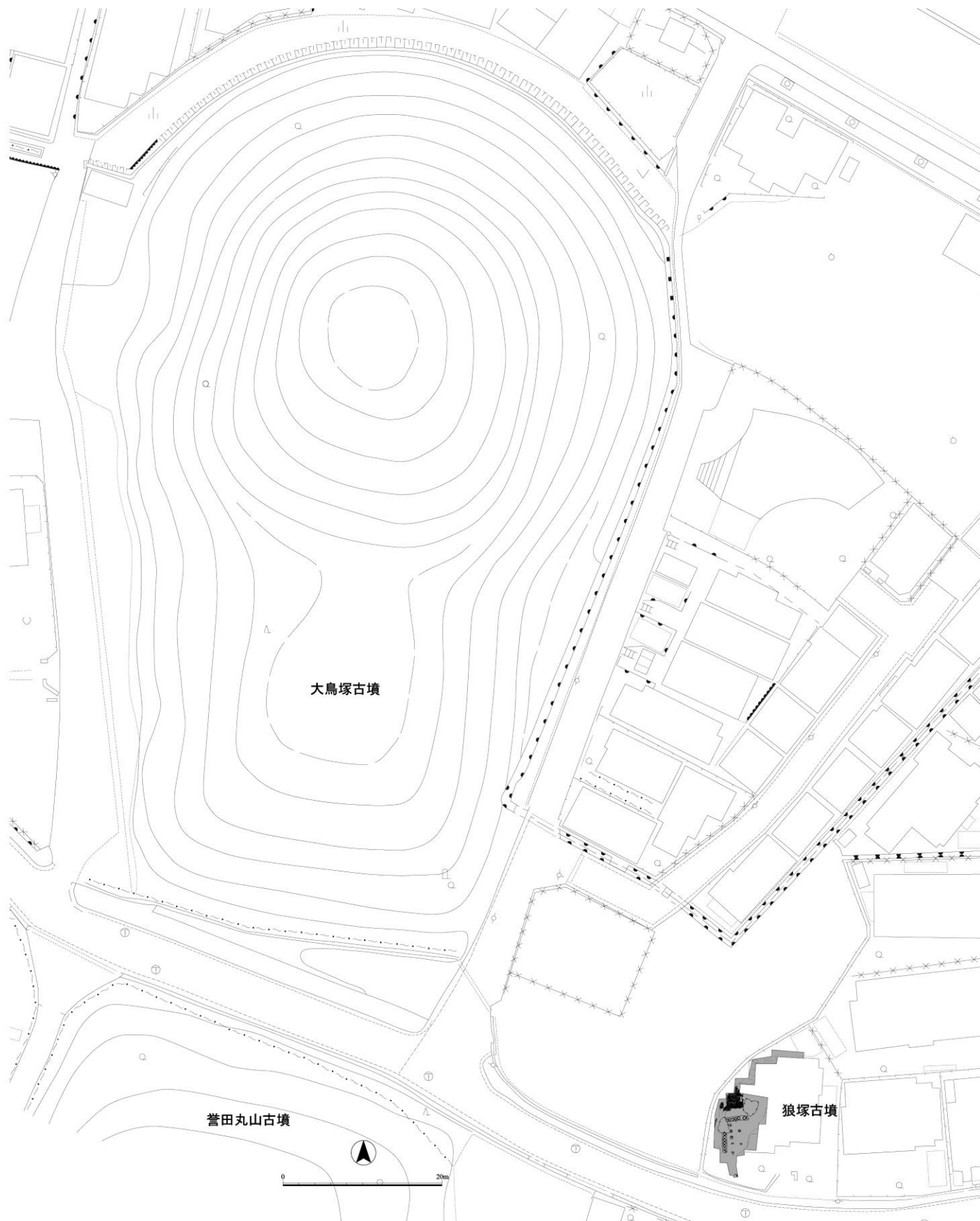
※本展示では柵形埴輪を方形に囲った状態を「^{かこいがた}囲形埴輪」、
囲形埴輪と木桶形土製品をセットにしたものを「導水施設形埴輪」と呼称しています。



導水施設形埴輪 出土状況



狼塚古墳 位置図



狼塚古墳 詳細位置図